

宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題(16)

－ 2024年度「基礎ゼミ」授業報告と意識調査結果－

Issues in Education for the First-Year Student at UTSUNOMIYA KYOWA UNIV.
(16)

－ Class Reports and the Results of a Questionnaire Survey －

松 田 勇 一

MATSUDA Yuichi

概要

本稿では、宇都宮共和大学における2024年度の初年次教育科目「基礎ゼミ」の授業報告と、本科目を受講した学生に対する意識調査の結果を示した。授業報告では、本科目の目的、方法、概要を示した。意識調査では、大学生活、今後の勉強、基礎ゼミに大別し、各項目に関する質問とその回答結果を示した。

キーワード：初年次教育 基礎ゼミ 授業報告 意識調査

1 はじめに

本学では、2016年度より初年次教育科目として「基礎ゼミ」が開講され、松田（2017、2018、2019、2020、2021、2022、2023、2024）ではその授業報告と意識調査の結果を示した。2020年に始まったコロナ禍により、一時期はオンラインでの授業を行ったが、2021年度からは通常の講義形式に戻った。また、2021年度から全新生入生に対してクロームブックを配布し、基礎ゼミにおいてはグーグルクラスルームを通じて課題の提出等を行っている。本稿では、2024年度「基礎ゼミ」の授業報告と、本学における初年次教育の課題を提示することを目的とする。

2 授業概要

本学部の基礎ゼミは新入生の必修科目であり、大学生活を送るために必要なアカデミック・スキルを身に付けてもらうのが大きな役割である。本科目では、学生の出身校、性別等を考慮して5つのクラスを編成した。1クラスあたりの学生数は11～12名であり、各クラスに担当教員が1名配置された。また、秋学期にクラス再編を行い、ゼミ構成員、担当教員が替わるようにした。

2.1 目的

2024年度の基礎ゼミの目的は、昨年度と同様である。

- (1) 大学での学び方、学生生活の送り方を学ぶ。
- (2) 2年次のゼミへ向けて、調査・研究の基礎を学ぶ。
- (3) 卒業後の人生に目を向け、学生時代の過ごし方について考える。
- (4) 週間日誌の作成を通して、自己管理能力、自立学習を身に付ける。
- (5) 作文を通して、基本的な書く能力を習得する。
- (6) 各種課題の口頭発表を通じて、プレゼンテーションの基礎を身に付ける。
- (7) 合同講義を通じて、教科書の内容をより深く理解し、アカデミック・スキルを身に付ける。
- (8) クロームブックを活用し、課題を電子データとして提出することができる。
- (9) 学期末にパワーポイントを用いて、今後の研究について発表することができる。

2.2 授業の方法と内容

2024年度基礎ゼミは、受講者57名（日本人学生55名・留学生2名）を5クラスに分けた。各クラスには担当教員を配置し、授業時間、内容は5クラス全て統一した。そのため、毎回の授業前には、5人の担当教員が打ち合わせを行い、当日の流れや課題、提出物等を確認し合った。なお、秋学期にはクラスの再編を行った。

授業は、初年次教育のためのテキスト（川延他編2011）を用いて行った。テキストを用いた授業は、5クラスに分かれて実施した。基本的には教科書の内容に沿って進めたが、教科書の途中で全てのゼミ合同での講義（ノートテイキングやレポートの書き方等）や発表等を行った。2021年度からは1年生全員にクロームブックを配布し、学内のICT教育を推進しているが、2024年度においても基礎ゼミの最初にクロームブックについての説明会を合同で行った。授業の具体的な内容は以下の通りである。

学期	回	内容
春 学 期	1	クロームブックの使い方（5クラス合同／高丸教員）
	2	テキスト第1章「さあ、はじめよう」
	3	テキスト第2章「勉強のリズムを作ろう」
	4	テキスト第3章「大学で学ぶということ」
	6	ノートテイキング（5クラス合同／松田教員）
	7	テキスト第4章「困ったことはありませんか」
	8	テキスト第5章「大学はワンダーランド」
	9	テキスト第6章「自分を守る、他人を守る」
	10	テキスト第7章「キャンパスツアー」
	11	発表「キャンパス周辺の〇〇場所」〇〇は自由（5クラス合同）
	12	発表「キャンパス周辺の〇〇場所」〇〇は自由（5クラス合同）
	13	レポートの書き方（5クラス合同／松田教員）

秋 学 期	14	テキスト第8章「生活プランをどう立てるか」
	15	消費者カレッジ（5クラス合同／学生委員会主催）
	16	キャンパスハラスメント防止啓発研修・クラス再編（5クラス合同）
	17	テキスト第9章「卒業したらどうするか」
	18	キャリアガイダンス（5クラス合同／就職委員会主催）
	19	発表「夏休みの課題：私の〇〇場所」〇〇は自由（5クラス合同）
	20	発表「夏休みの課題：私の〇〇場所」〇〇は自由（5クラス合同）
	21	テキスト第10章「生活と人生のデザイン」
	22	大学祭ポスター展示（「夏休みの課題：私の〇〇場所」〇〇は自由）
	23	テキスト第11章「研究テーマを考える」
	24	テキスト第12章「研究を進める」
	25	テキスト第13章「研究報告をまとめる」 テキスト第14章「プレゼンテーションとレポート」
	26	最終発表リハーサル・質疑応答（各クラス）
	27	最終発表「これからの研究したいこと」（5クラス合同・1人3分）
	28	最終発表「これからの研究したいこと」（5クラス合同・1人3分）
	29	最終発表「これからの研究したいこと」（5クラス合同・1人3分）
	30	卒業研究発表会聴講（4年生の卒業研究発表を聴講し評価する）

基礎ゼミでは、課題として「週間日誌」を2週間に1度、グーグルフォームの記述式テキスト形式で提出させている。内容は、「新たに学んだこと・気づいたこと」100字以上、「週間報告—この2週間で印象に残った出来事」200字以上、「作文」200字以上で提出させた。課題は提出期限を定めてグーグルクラスルームを通じて学生に通知した。なお、週間日誌の採点は各クラスの担当教員が行い、期日までに提出された場合は2点、遅れて提出した場合（締め切り週金曜日まで）は1点、未提出の場合は0点とした。

また、春学期の発表「キャンパス周辺の〇〇場所」の写真データ、秋学期の「夏休みの課題：私の〇〇場所」の写真データ、最終発表「これから研究したいこと」のスライドデータは、全てグーグルクラスルームで指示を出し、提出させた。なお、秋学期の大学祭ポスターは電子データではなく手書きとした。これは電子データでは表現が難しい装飾やアレンジを学生にしてもらうためであった。結果として、学生個々のアイデアが生かされたポスターが多く展示された。

2.3 成績評価

ポートフォリオ（週間日誌）40%、テキストのワークシート40%、発表20%とした。単位取得の為に各発表は必須とし、単位認定は出席2/3以上の者を対象とした。

3 意識調査

3.1 調査概要

調査は、2024年度基礎ゼミの最終回（最終発表後）において実施した。調査した学生数は、春学期は日本人学生52名、留学生2名、秋学期は日本人学生43、留学生2名であった。なお、回答者数の違いは、退学、欠席があったためである。また、調査はグーグルフォームを利用し、回答は5段階評定法、及び自由回答法によった。調査票は大学生活全般について、これからの勉強について、基礎ゼミについて、に分かれている。

3.2 結果と考察

以下、質問と共に集計結果を示す。

3.2.1 大学生活全般について

大学生活全般に関する質問（①宇都宮共和大学に入って良かったと思う ②大学生活に満足している ③大学生活は楽しい ④大学生活は役に立っている ⑤大学の施設・設備に満足している ⑥大学周辺の環境に満足している ⑦大学の授業に満足している

⑧大学の授業は楽しい ⑨大学の授業は役に立っている ⑩大学の授業は難しい ⑪教員の教え方や対応に満足している）の結果を示す。これらの質問については、5段階評定法（1 全然そう思わない、2 あまりそう思わない、3 どちらとも言えない、4 少しそう思う、5 とてもそう思う）により回答を得た。

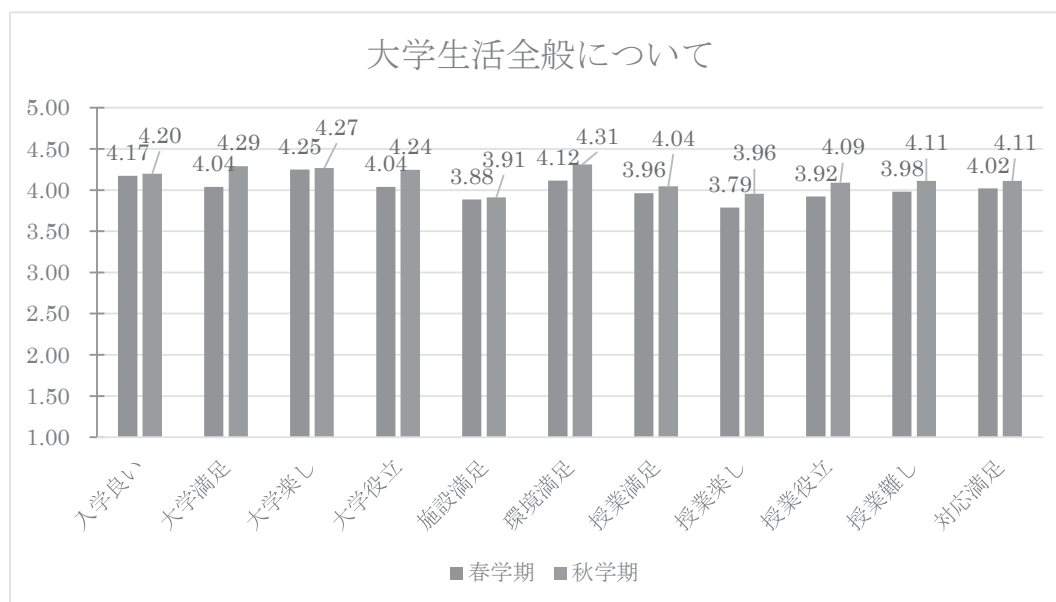


図1

まず、例年は4.0に満たない項目が多いのだが、今年度は多くの項目において4.0を超えた。理由は分からないが、もしかするとコロナ禍で高校3年間で過ごした年代であるた

め、大学において新スタートが自由な雰囲気でごせることに評価が高まったのかもしれない。また、これも例年とは異なる傾向であるが、全ての項目において春学期よりも秋学期の方が数値が高かった。大学生活に慣れ、充実した生活を送れている学生が多いということかもしれない。

次に、大学生活、大学の施設、授業、教員の対応等について、不満な点、意見等を回答してもらった結果を示す。なお、回答方法は自由記述によった。

【自由記述：春学期】

- ・思っていたより英語が進まないなと感じました。
- ・他の教科もそうですが何か目的を持って専念する勉強にうちこむというのがないなという印象を持ちました。
- ・こうせいとうを使える時間を自由にしてほしい。これから8時までになると聞きましたが、バンド練習がその時間を超えてしまうため、できれば今まで通りにしてほしいです。
- ・暑い
- ・一日が早く感じているので、何もしないまま卒業を迎えそうで不安
- ・8時～19時ではなくもう少し学校が空いてる時間を増やしてほしい
- ・軽音サークルでドラムが足りないため、できれば買い足していただけるとありがたいと思います。
- ・施設内の場所によってのWi-Fiの強さが違いすぎる。特にメインホールのところ。
- ・Wi-Fiが弱い
- ・厚生棟が8時以降使えなくなったこと

【自由記述：秋学期】

- ・総合英語が2クラスあるが成績の付け方の差がすごい。同じ授業名でここまで差がつくのはありえない。問題になるレベル。理由があるなら教えて欲しい。
- ・夏休みが短いと感じた
- ・だれも使っていないときは厚生棟2階を使いたい。
- ・学食の利用しにくさ
- ・メニューの少なさ
- ・厚生棟の2階が自由に使えなくなったのは不満です。休みの期間はピアノをいつでも使って良いようにしてほしいです。
- ・食堂の自由に飲めるお茶のところに玄米茶を追加してほしい
- ・自由に過ごせる空間が少ないように思う、なぜ厚生棟2階は生徒使えないのか知りたい

以上のような意見が見られたが、教育厚生棟2階のラウンジについての意見が散見さ

れた。教育厚生棟のラウンジは、コロナ禍においてソーシャルディスタンスの確保のために特別に学生の使用を認めていた。しかし、コロナが5類へと引き下げられ、通常の生活に戻ったため、教育ラウンジの使用も従来の「学生の使用は教員を伴う場合に限る」という条件に戻ったのである。新入生にとっては、これまで良かったものが急に使用できなくなったという感が否めず、不満が表れたのであろう。施設の使用条件については、その経緯も含めて丁寧な説明が求められよう。また、ある外国語科目についての厳しい意見も見られた。人数の関係上、2クラスに分けて授業を行っているが、クラス間で評価が異なるのは学生を不平等に扱うことになるので、今後は是正する必要がある。

3.2.2 これからの勉強について

「これからの勉強について」は、10項目の質問（①自分の関心がある専門分野を集中的に勉強したい ②できるだけ様々な分野を広く勉強したい ③履修科目は、自分の興味関心で決めたい ④履修科目は、卒業要件を満たせば良い ⑤資格試験などに積極的に取り組みたい ⑥大学院進学に向けて勉強したい ⑦授業の単位を一つでも多く取りたい ⑧出来るだけ良い成績で単位を取りたい ⑨積極的に大学の施設などを利用していきたい ⑩積極的に先生に指導を受けたい）を設置した。回答は、5段階評定法（1全然そう思わない、2あまりそう思わない、3どちらとも言えない、4少しそう思う、5とてもそう思う）によった。

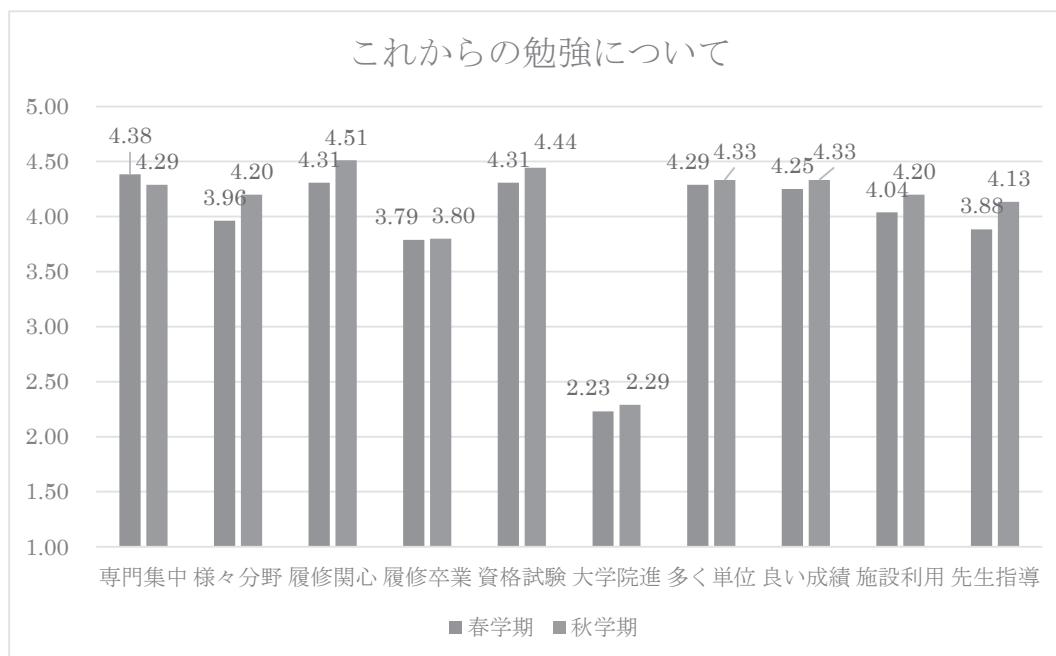


図2

まず、全体の結果を見ると、多くの項目で4.0を超え、例年より高評価となった。特に③履修科目は、自分の興味関心で決めたい（春 4.31 秋 4.51）、⑤資格試験などに積極的

に取り組みたい（春 4.31 秋 4.44）と非常に高かった。単に卒業するだけではなく、自分の興味関心と資格という点について学生の意識が高まっている表れであろう。

次に、これからの勉強について自由回答してもらった結果を示す。

【自由記述：春学期】

- ・テスト対策をどうすればいいか分からない
- ・ついていけるか心配
- ・やるべき勉強がわからない
- ・奨学金があるのでテストが心配です
- ・まだテストを受けていないため、どのような対策をすればいいかが不安です。

【自由記述：秋学期】

- ・就職が心配
- ・簿記含め、授業内で資格の基礎が学べると思ったら全く違った。
- ・公務員講座には自然科学の強化すら入っていないてがっかりしました。お金だけかかるという印象です。

以上のような回答が得られたが、春学期は例年通り、大学での初めての期末試験に対する不安が見られた。秋学期は、資格試験についての記述が見られた。

3.2.3 基礎ゼミについて

基礎ゼミについては、基礎ゼミ全般について9つの質問（①基礎ゼミは楽しかった ②基礎ゼミは役に立った ③基礎ゼミを通じて友人ができた ④基礎ゼミは少人数に分けられていて良かった ⑤基礎ゼミでのグループでの話し合いは楽しかった ⑥クロームブックで課題を作成することは良かった ⑦課題（新たに学んだこと・気づいたこと）は良かった ⑧課題（週間報告）は良かった ⑨課題（作文）は良かった）を設置した。

作文テーマは、春学期は「自己紹介」、「高校時代の一番の思い出」、「私の親友」、「私の名前の由来」、「私の自慢」、「私の趣味」、「私の家族」、「春学期の総括」であった。昨年度までは「今までで一番ラッキーだったこと」を課していたが、アンケート結果が芳しくなかったことから今年度から「私の家族」に変更した。秋学期は、「私の春学期と夏休み」、「私の長所と短所」、「私の宝物」、「私の好きな本」、「私が一番感動した映画」、「もし生まれ変わったら」、「将来の夢」、「1年間の総括」であった。

各回の授業については、基礎ゼミの教科書『プレステップ基礎ゼミ』（第1章～第14章）と合同講義（「クロームブックの使い方」、「ノートテイキング」、「キャンパス周辺の発表をしたこと」、「レポートの書き方」、「夏休みの課題発表」、「大学祭での展示」、「最終発

表りハーサル」、「最終発表」)に関する質問である。

以上の設問回答は、5段階評定法（1全然そう思わない、2あまりそう思わない、3どちらとも言えない、4少しそう思う、5とてもそう思う）によった。

【基礎ゼミ全般について】

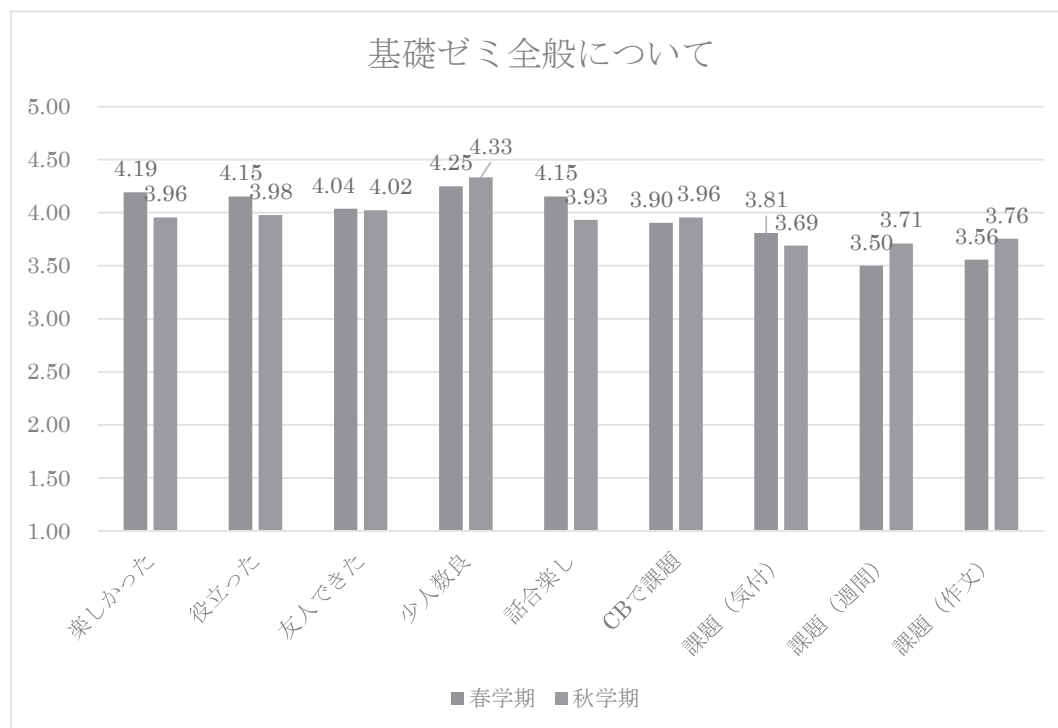


図3

まず、春学期、秋学期を通して4.0を超えたのは、「友人ができた」、「少人数制の授業」であった。「少人数制の授業」は例年、高い評価を得ており、本学の特長が学生に受け入れられたものと捉えられる。また、「課題」については例年3点台前半だったが、今年度は3点台後半となっており、学生がクロームブックでの作業に熟達してきた表れではないかと考えられる。

次に、基礎ゼミ全般について自由回答してもらった結果を示す。

【自由記述：秋学期】（春学期は記述無し）

- ・ 2週間の間に印象に残ったことが思いつかず、難しい
- ・ 先生によって評価の基準が異なり、解せない。
- ・ たった2週間でそんなに書くことがない、①・②を分ける必要性を感じない
- ・ 旅行に行けるとしたら、どこに行きたい
- ・ 毎度同じか似通った内容でつまらない担当教員からのアドバイスもなし、何をやって

いたのか不思議。

以上のような回答が見られたが、「教員によって評価基準が異なる」という点は今後注意しなくてはならない。毎回の授業前教員ミーティングを充実させ、授業の内容、評価に差が出ないように留意していきたい。

【作文テーマについて】

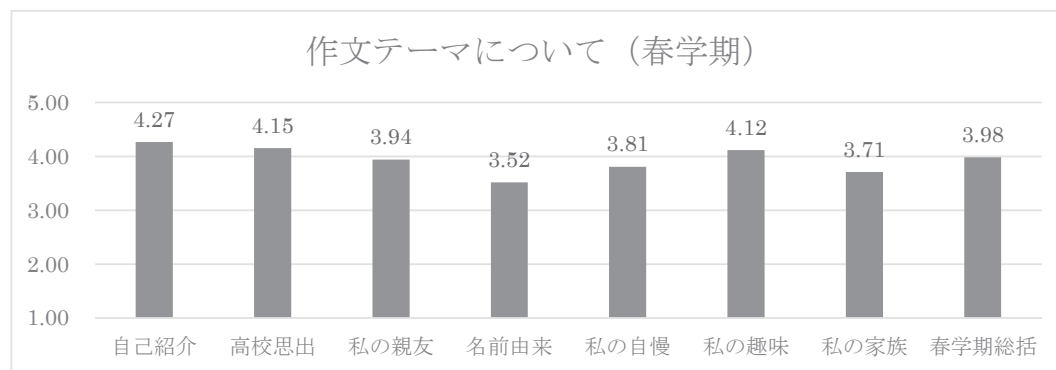


図4

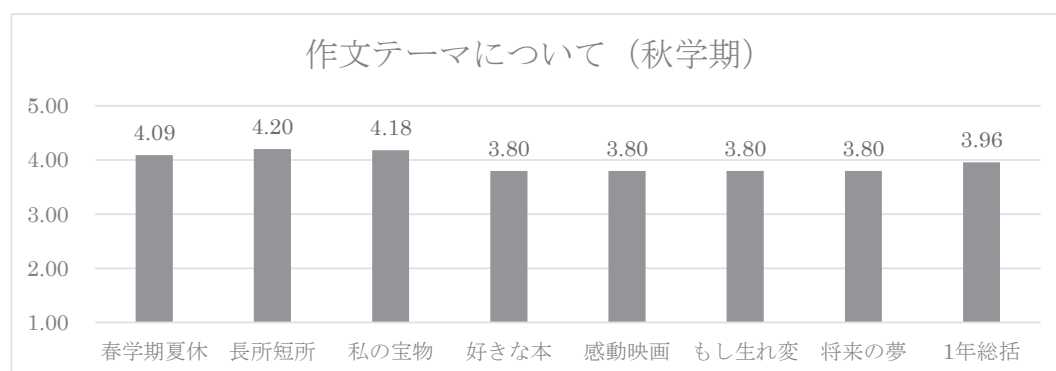


図5

作文のテーマについて、評価が高かったものが「自己紹介」4.27、「高校時代の思い出」4.15、「私の趣味」4.12、「春学期と夏休み」4.09、「私の長所と短所」4.20、「私の宝物」4.18であった。例年評価が低かった「今までで一番ラッキーだったこと」の代わりに、今年度から採用した「私の家族」は3.71であった。また、これは学生が提出した作文を確認して気が付いたことだが、「私の好きな本」と「私が一番感動した映画」は同一作品の場合が多いため、来年度はどちらかを変更した方が良いかもしれない。

次に、作文のテーマとして取り上げてほしいものについて自由回答してもらった結果を示す。

【自由記述】

- ・将来のこと 大学でやりたいこと
- ・自分が行き詰まったことについて
- ・今までで1番感動したこと
- ・将来の夢・未来の自分へ（10年後など）
- ・自分の趣味
- ・好きなメインカルチャー 提案週間日誌の内容を共有したりすると良いかも知れません。
- ・お気に入りの曲
- ・私が一番大事にしていること

以上のような記述が見られたが、来年度はいくつかのテーマを変更し、学生がより興味を持って取り組める内容にしていきたい。

【教科書について】

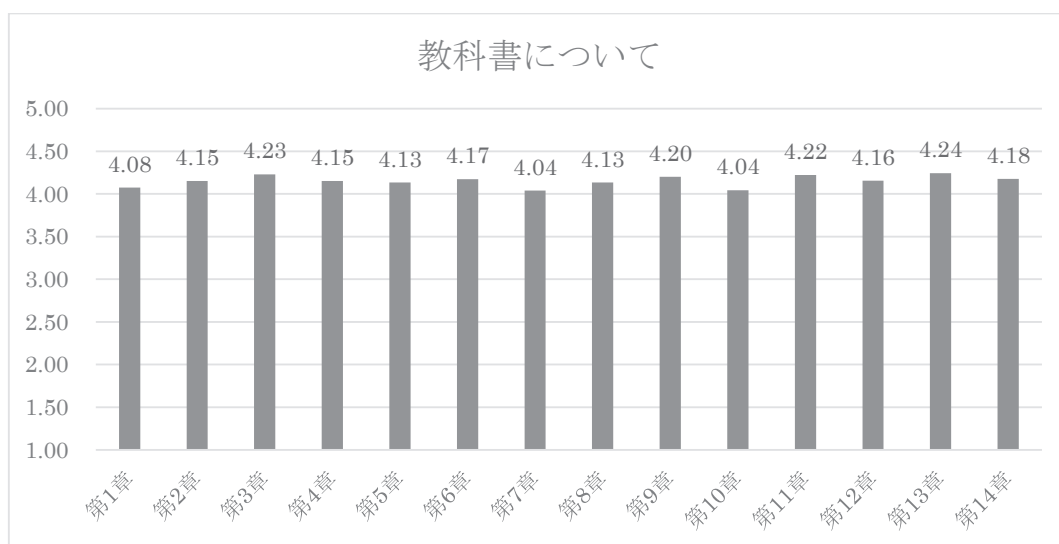


図6

教科書については、全ての章で4.0以上となり、概ね高評価だった。

【各回の授業について】

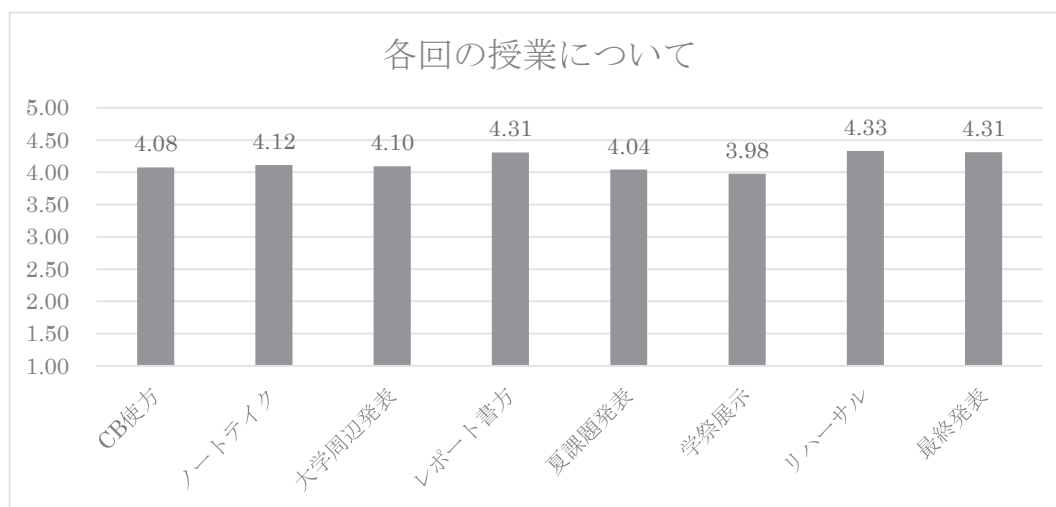


図7

各回の授業については、大学祭展示以外は全て4.0以上となった。特に「レポートの書き方」は、期末レポートの出題時期に合わせて講義するようにしているため、評価が高くなったと考えられる。大学祭展示は、写真印刷をした上で手書きによる装飾を加え、自分の作品を貼付する必要がある等手間がかかるため、他の項目よりは低くなったのかもしれない。

各回の授業についての自由回答は、以下のものがあつた。

【自由記述：秋学期】（春学期は記述無し）

- ・3分は短いと思う

この記述は、最終発表の発表時間が3分であることについてのコメントであろうと思われる。最終発表は、余裕を持たせるために3回に分けているが、1人5分での実施も可能である。来年度の最終発表は5分間とし、原稿、スライド共により充実した内容になるよう指導していきたい。

4 まとめと今後の課題

2024度の新入生は、コロナ禍における高校生活3年間を過ごさなくてはならなかった学生たちである。それがどのような影響を彼ら彼女らに与えたのかは分からないが、大学生活をコロナ禍ではない通常の状況で始められたのは、喜ばしいことではなかろうか。その表れと言えるかどうかは定かではないが、大学生活に対する評価は概ね例年よりも高いものとなった。授業内容や進め方等は例年と変わったわけではないが、制限なく自

由に話し合える環境というものが、良い影響を与えていることは確かであろう。

講義においては、クロームブックでの課題の提出や発表における原稿の作成、写真の提出等もスムーズに進行できた。クロームブックに限らず、毎年、新入生のリテラシーが向上しているため、教員側も遅れを取らないよう自らのアップデートを励行しなければならない。スライドを用いた最終発表も毎年内容が充実してきているように感じる。「3分間では短い」というコメントがあった通り、より中身のある内容にするためには時間の延長が必要である。来年度の最終発表については、発表時間をこれまでの3分間から5分間に延長し、より内容あるものとしていきたい。

本学の特長である少人数制の授業については学生から高い評価を得ている。この特長を生かし、今後もペアワークやグループワークを通じた仲間づくり等を推進し、学生たちが充実した学生生活を送れる手助けをしていきたい。

謝辞：2024年度の基礎ゼミでは、本学の薄井浩信准教授、永井紹裕専任講師、坂口豪専任講師、三浦魁斗専任講師には、円滑な授業運営・クラス活動のためご協力をいただき、また毎回の教師ミーティングの際にはご助言をいただきました。ここに心から感謝申し上げます。

【参考文献】

- 川廷宗之・川野辺裕幸・岩井洋編（2011）『プレステップ基礎ゼミ』弘文堂
- 松田勇一（2017）「宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題(8)－平成28年度「基礎ゼミ」授業報告と意識調査結果－」『宇都宮共和大学シティライフ学論叢』第18号
- 松田勇一（2018）「宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題(9)－平成29年度「基礎ゼミ」授業報告と意識調査結果－」『宇都宮共和大学シティライフ学論叢』第19号
- 松田勇一（2019）「宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題(10)－平成30年度「基礎ゼミ」授業報告と意識調査結果－」『宇都宮共和大学シティライフ学論叢』第20号
- 松田勇一（2020）「宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題(11)－2019年度「基礎ゼミ」授業報告と意識調査結果－」『宇都宮共和大学シティライフ学論叢』第21号
- 松田勇一（2021）「宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題(12)－2020年度「基礎ゼミ」授業報告と意識調査結果－」『宇都宮共和大学シティライフ学論叢』第22号
- 松田勇一（2022）「宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題(13)－2021年度「基礎ゼミ」授業報告と意識調査結果－」『宇都宮共和大学シティライフ学論叢』第23号
- 松田勇一（2023）「宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題(14)－2022年度「基礎ゼミ」授業報告と意識調査結果－」『宇都宮共和大学シティライフ学論叢』第24号
- 松田勇一（2024）「宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題(15)－2023年度「基礎ゼミ」授業報告と意識調査結果－」『宇都宮共和大学シティライフ学論叢』第25号